

## 令和7年度

# 施政方針と予算の概要

令和7年度の施政方針の主な内容をお知らせします。施政方針とは、町政運営に対する町長の考えや主要な施策を明らかにするものです。



城里町長  
上遠野 修

平成27年度に策定した「第2次  
城里町総合計画(平成28年度～令和  
7年度)」に基づき、

- 働く場所をつくる
  - 住みよい環境をつくる
  - 住む場所をつくる
  - 愛する心を育成する
- を4つの政策の柱として、今年度も人口減少対策に引き続き取り組みます。

去る2月1日には、盛大に「城里町誕生20周年記念式典」を開催することができました。御協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

この20年を振り返ると、城里町はさまざまな施設の整備を着実に進めており、町の骨格となる施設の整備を終えつつあります。「道の駅かつら」の建て替えは、城里町の基幹施設整備の仕上げとも言える事業です。

また、合併後の20年間は財政健全化に取り組んだ20年間でもありました。重要な財政健全化指標である「将来負担比率」は、平成20年度の167%から現在では40%へと低下しており、実質的な借金を4分の1以下に減らしてきたこととなります。財政健全化に向けた着実な歩みに御理解と御協力をいただきました皆様に心から感謝を申し上げます次第です。

さて、令和7年度予算は、一般会計が約132億8千9百万円となり、令和6年度に比較して24億5千3百万円の大幅な増加と

なりました。予算が大幅に増大した主な理由は、「道の駅かつら移転整備事業」にあります。

関東第一号の道の駅である「道の駅かつら」は、今回の事業により、「関東で一番魅力のある道の駅」に生まれ変わるうとしています。美しい川や山を望む道の駅かつらは、茨城県を代表する観光地となることを目指しています。

昨年の「道の駅かつら移転整備事業」の内容としては、春に事業用地を買収し、夏までに買収した土地にある既存建物を撤去し、秋にはついに造成工事を着工させました。

令和7年度には、いよいよ建築本體工事が始まります。この建築本體工事等の費用として総額で約19億円を計上しており、予算が膨らんだ要因のひとつが「道の駅かつら移転整備事業」となっています。この「道の駅かつら移転整備事業」にあたっては、国の補助金・交付金や有利な起債を活用しているため、実質的な町の負担額は約33億円

全体の約18%程度になる見込みです。城里町は、最初の10年で町の骨格を作り上げ、その次の10年で子育て支援のトップランナーとなりました。そして、この次の10年は観光施設の魅力度を高め、「住んでよし、遊びに行つてよし」と評価される城里町を目指して参ります。

次に水道事業・下水道事業についてであります。両課は令和7年度から統合し、上下水道課として一体的な組織となります。水道と下水道は、住民の生活に欠かせない重要なインフラです。運営や管理を一体とすることで、業務の効率化を図り、より効果的なサービス提供を実現してまいります。

結びとなりますが、今後とも町民との対話、町民との協働を図りながら、町の将来像である「人と自然が響きあい、ともに輝く住みよいまち」づくりの実現に向け、全力で取り組んで参ります。